# はたちの自覚

ことしの成人式の日に、祝福された人々は、南国市で605人を数えた。これらの人たちのなかから、代表の方々に集っていただき、大人となった自覚を、選挙と、結婚について語ってもらった。

## 政治意識を高めよう

### 始めての一票は当選者へ

▼選挙にあたって、目に見えるような違反をしているものもある。買収のような形がみえたり、よく話しにきいたりするけれど、自分たちは大人と違って義理人情はないので、相談があっても自分の意志を通してゆきたい。

▼選挙の票読みの場合、あそこは何票あるが、何票しかくれない。あそこは全部大丈夫だとかよくいわれる。家庭での話し合いや、部落で世話をしている人の話なども、結果的によくあたっている。

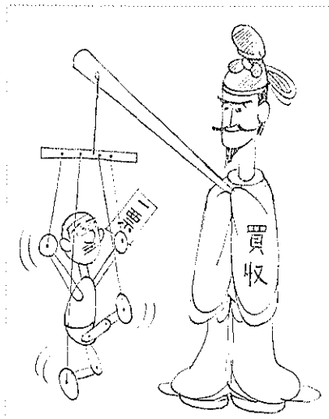
▼それは身近な選挙の場合で国の選挙にはあてはまらない、身近な選挙ほど窮屈になり、自分の意志ではどうにもならないことになる。

▼選挙権ができたときから一度も投票を欠がしたことはない。一番最初にできたとき、近所のオンチャンに引張られてある席にいった。しかし、自分の意志は自分なりに通している。なんにも知らない若者を動揺させないよう。大人は気を付けるべきだ。

▼選挙は勝負といえる。勝てば官軍のたとえそのままで、あらゆる手段を使い当選への道をたどっている。世渡りがむつかしいように選挙も同じで、ともに勝負を重じるスポーツのようなものだ。

▼公明選挙の呼びかけをやってきたが、市会議員の話し合いのときには公明にやるといっていたのに、ものすごい運動が行なわれた。県会や、衆議院のときはいやな気持ちだった。

助言　みんなのいっていることは正しい。立候補してみると判ることだが、どうしても勝ちたい。本人は正しくやろうとしても、そこにまた手段を選らばないように、周囲からのつき合いからよいことではないが、最後的にはどんなことでもやりかねない。選挙はそういうもので、まさしく勝負である。



あやつられては　たいへんです
森吉正照

司会　選挙権ができたこと、政治にタッチすることになって思ったことは……。

▼親のやっている選挙をみたり、選挙を一度やってみて、買収などの行為はなかなか消えないものだと感じた。しかし、そんなことはやりたくない。

▼なんにも感じたことはない。市会議員のとき、ある候補者の名前を書いた用紙を配ってきたのには腹が立った。

▼選挙権がないときは、候補者の意見を聞かなかったが、できるとその人たちの意見に耳をかたむけ、人の話を聞きだした。親族の人からすすめられた人もよかったが、自分の考えていた人に投票した。

▼自分に価値ができた。一票がつもれば五百票となり当選ということになる。高校三年ごろから新聞をよみ、考えはきまっている。しかし、始めての一票は当選する人にやりたいと思った。

▼自分の一票も大事だし、それだけ自分に価値ができた。選挙のときだけ清き一票だなんていうのはどうもいただかねる。

▼緊張しすぐく責任を感じた。自分の信用する人が上がったのはすごくうれしかった。これから大いに勉強してゆきたい。

▼まだ投票したことはないから、実感は湧かない。人からいろいろ話しがあっても聞き流しておいて。自分の思った正しい人に入れてゆきたい。

▼みんなの候補者、反対党の人の話しであってもよくきいてゆきたい。

▼社会の人の話しや、選挙はまだ判らないので、親に相談し、家族会議で話し合って決めている。

司会　投票所のふん囲気は、

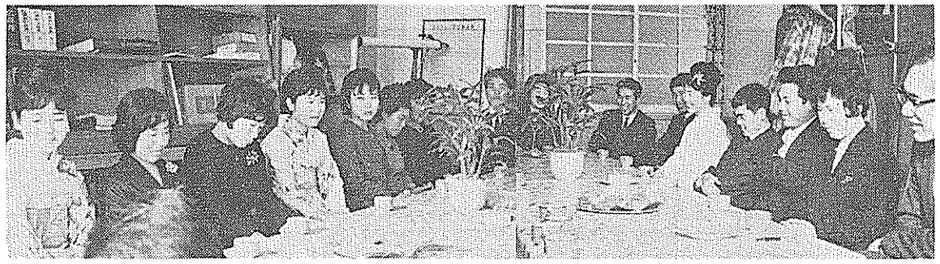
▼緊張しすぎて投票箱が分からなかった。レコードをかけるとか活花を飾るとかなごやかな投票所に……

固ぐるしく入ってきた人には、やさしく声をかけるとか、笑談をいうなど、その人の気分をほぐすこともネ。

▼立会人にお年寄りが多くなじめない。投票所はなごやかに。選挙人は厳粛に投票すべきだ。







## 結婚感と理想の人

男性……農家のよさも考えて
サラリーマンへ……女性

司会　理想の女性は、

▼教養を重くみたい。しかし、それだけでもいけない。やはり、十人なみということであれば……

▼まず健康だネ、顔かたちや教養がいくらよかっても〝健康〟がよくなければ幸せとはいえない。

▼なにはさておいても健康第一に考えたい。その上に教養とか、姿かたちがととのっておればいうことはないネ。

▼体の健康も大事だが、心の健康も大切だ。結婚の対象ということになれば健康と人柄ということと、つり合いということも考えねば……。

▼美人で人もよいが、家柄や、毛並みが悪いというのも、世間にはよくあることだネ。

司会　理想とする男性は、

▼人柄がよく、誠実味のある真面目な人であればよいと思っている。……

▼そうですネ、なんといっても誠実味のあることを一番にみたい。それにさきほどのように健康であるということも考えなければ……（全員男性の誠実を求めた）

司会　結婚は恋愛、見合のいづれで、

▼見合であって、恋愛といった方がよいのではないだろうか。

▼恋愛の方がよいとは思うが、その機会がつかめないので、見合になる方が多いと思う。

▼親によっては、恋愛も許してくれるだろうが、まだまだ古いカラの親が多いから……。

▼きっかけがあったら恋愛の方がよい。そのきっかけをつかむのがむつかしい。チョットしたことから、なんでもないことから始まるというけれど……。

▼いまは分からない。好きな人があるが、親がむつかしく結婚できないといういとこのことを考えると、恋愛も考えものだと思っている。

▼恋愛にも勇気がいるネ。しかし一度は恋愛をしてみたい。一生に一度のことであるから……。

▼お見合になる方が私は強い。お見合から愛情の湧くこともあると思う。

司会　農家の嫁ききんといわれるが。

▼家は農家だが、農家でない方がよい。年から年中忙しく働かねばならない農家はいやだ……。

▼農家でもよいが、なるべくサラリーマンの方を希望している。農家にも経済的にみればよいこともあるけれど……。

▼そんなに農家を嫌うこともないと思うが、農家には農家のよさもあるし、農家でなければ味わえない喜びもある。

▼農家の労働の苦しさばかりを嫌っているようであるが、農家でないところから嫁入りし立派にやっている人もいる。

▼働くばかりが農家ではない、休む時間も多い。お互いが助け合って、生活にうるおいをもたらすようにすれば、百姓だってよいものだ。

むかしのままの農家ではない。

助言　農家の人は是非農家へ。それには始めに条件を付けることもよい。例えば、小遣いは月いくらとか、一―二反の耕地を自分達で作り、その収入は小遣いにさせてもらうとか、月一回とか、週一回の農休日を決めておくとか、いろいろの方法があろう。

見合から恋愛に移行するということが、いまの時代では一番よいだろう。恋愛のきっかけは待っていてはできない。好きな人があれば真心から親切に、その人に接してゆくべきだ。純潔を守ることはお互いに大切だ。

人の幸せは、もらうものより、人に与えることにより生まれるものだ。

## 空のスピード競走は始まった

いま世界の空を飛んでいるジエット旅客機は約七百機、時速九百キロであり音速より遅い。これから十年もすればこのジエット機時代も終わり超音速旅客機の時代となる。一番進んでいるのはイギリスとフランスで、マッハ二・二（マッハ一は音速）の試作機コンコードを作り一九七〇年には完成さすと馬力をかけている。エンジンと胴体はイギリス、翼はフランスが作る。出した研究費が各々八五〇億円の大金である。アメリカはマッハ三をねらって研究している。これは時速三二〇〇キロである。これだと東京、サンフランシスコ間を約四時間で飛べる。現在世界各国の第一線戦闘機はマッハ二である。マッハ三ともなれば空気との摩擦で鉄なら赤くなる程熱してくるからアルミ合金製では機体がもたないのでステンレス鋼やチタン鋼で作られるようになる。この超音速機は二万㍍の上空を時速二千―三千キロで飛ぶ。だから完全な気密室でないと、気圧は地表の十分の一、温度は零下六十度C。気密が破れたら窒息死する。さらに機体を冷やす冷房装置強力な宇宙線の防御など難問が多い。値段も一機六、七十億円と高価である。

鉄空（ロケット）